

平成 22 年七戸町議会第 1 回臨時会 会議録（第 1 号）

平成 22 年 7 月 12 日（月） 午前 10 時 00 分 開会

○議事日程

- 日程第 1 会議録署名議員の指名
- 日程第 2 会期決定の件
- 日程第 3 諸般の報告
- 日程第 4 提出議案上程
議案第 54 号平成 22 年度青森県上北郡七戸町一般会計補正予算（第 2 号）
並びに議案第 55 号物品納入契約の締結についての 2 議案を一括上程
（町長提案理由説明）
- 日程第 5 議案第 54 号 平成 22 年度青森県上北郡七戸町一般会計補正予算（第 2 号）
- 日程第 6 議案第 55 号 物品納入契約の締結について

○本日の会議に付した事件

- 日程第 1 会議録署名議員の指名
- 日程第 2 会期決定の件
- 日程第 3 諸般の報告
- 日程第 4 提出議案上程
議案第 54 号平成 22 年度青森県上北郡七戸町一般会計補正予算（第 2 号）
並びに議案第 55 号物品納入契約の締結についての 2 議案を一括上程
（町長提案理由説明）
- 日程第 5 議案第 54 号 平成 22 年度青森県上北郡七戸町一般会計補正予算（第 2 号）
- 日程第 6 議案第 55 号 物品納入契約の締結について

○出席議員（17 名）

議 長	18 番	田 中 正 樹 君	副議長	17 番	工 藤 耕 一 君
	1 番	附 田 俊 仁 君		2 番	佐々木 寿 夫 君
	3 番	天 間 章 八 君		4 番	瀬 川 左 一 君
	5 番	盛 田 恵 津 子 君		6 番	田 嶋 弘 一 君
	7 番	田 嶋 輝 雄 君		8 番	三 上 正 二 君

9 番 天 間 清太郎 君
 1 2 番 松 本 祐 一 君
 1 4 番 田 島 政 義 君
 1 6 番 白 石 洋 君

1 0 番 原 子 孝 君
 1 3 番 二ツ森 圭 吉 君
 1 5 番 中 村 正 彦 君

○欠席議員（0名）

○説明のため会議に出席した者の職氏名

町 長 小 又 勉 君
 総 務 課 長 似 鳥 和 彦 君
 企画財政課長 楠 章 君
 町 民 課 長 澤 田 康 曜 君
 健康福祉課長 田 中 順 一 君
 農 林 課 長 神 山 俊 男 君
 建 設 課 長 米 田 春 彦 君
 上 下 水 道 課 天 間 一 二 君
 教 育 委 員 長 中 村 公 一 君
 学 務 課 長 附 田 繁 志 君
 スポーツ振興課長 小 原 信 明 君
 南 公 民 館 長 櫻 田 明 君
 （兼中央図書館長）
 農業委員会事務局長 木 村 正 光 君
 監査委員事務局長 佐 野 尚 君
 選挙管理委員会事務局長 澤 田 康 曜 君

副 町 長 大 平 均 君
 支 所 長 米 澤 秀 一 君
 （兼庶務課長）
 税 務 課 長 花 松 了 覚 君
 社会生活課長 森 田 耕 一 君
 会 計 課 長 天 間 勤 君
 新幹線建設対策課長 八 嶋 亮 君
 商工観光課長 米内山 敬 司 君
 城南児童館長 向中野 良 一 君
 教 育 長 倉 本 貢 君
 生涯学習課長 鳥谷部 宏 君
 中央公民館長 二ツ森 政 人 君
 農業委員会会長 佐 藤 午之助 君
 代表監査委員 野 田 幸 子 君
 選挙管理委員会委員長 松 下 喜 一 君

○職務のため会議に出席した事務局職員

事 務 局 長 佐 野 尚 君 事 務 局 次 長 築 田 政 光 君

○会議録署名議員

1 3 番 二ツ森 圭 吉 君

1 4 番 田 島 政 義 君

○会議を傍聴した者（8名）

○会議の経過

開会 午前 10 時 00 分

○開会宣告

○議長（田中正樹君） 皆さん、おはようございます。
ただいまの出席議員は、17名で定足数に達しています。
したがって、平成22年第1回七戸町議会臨時会は成立いたしました。
ただいまから、平成22年第1回七戸町議会臨時会を開会いたします。

○開議宣告

○議長（田中正樹君） これより、本日の会議を開きます。

○日程第1 会議録署名議員指名の件

○議長（田中正樹君） 日程第1 会議録署名議員の指名を行います。
会議録署名議員は、会議規則120条の規定により、13番二ツ森圭吉君と14番田島政義君を指名いたします。

○日程第2 会期決定の件

○議長（田中正樹君） 日程第2 会期決定の件を議題といたします。
お諮りします。
本臨時会の会期は、本日1日としたいと思います。
これにご異議ありませんか。
（「異議なし」と呼ぶ者あり）
○議長（田中正樹君） ご異議なしと認めます。
したがって、会期は本日1日と決定いたしました。
議長において作成しました議事日程及び説明員は、お手元に配布したとおりであります。

○日程第3 諸般の報告

○議長（田中正樹君） 日程第3 諸般の報告を行います。
議長の諸般の報告につきましては、皆さんに配布しておりますのでご了承願います。

○日程第4 提出議案一括上程

○議長（田中正樹君） 日程第4 議案第54号、平成22年度青森県上北郡七戸町一般

会計補正予算（第２号）並びに議案第５５号、物品納入契約の締結について（次世代電気バス購入）の、２議案を一括上程いたします。

町長から、提出議案について、提案理由の説明を求めます。

町長。

○町長（小又 勉君） おはようございます。

本日、平成２２年第１回七戸町議会臨時会の開会をお願いいたしましたところ、議員の皆様には、ご出席を賜りまして、誠にありがとうございます。

また、議員の皆様には、日頃から行政各般にわたりご尽力とご指導をいただいております。平成２２年度事業もほぼ計画どおりに執行しております。重ねてお礼申し上げます。

ご承知のとおり、昨日、参議院議員選挙が行われ、結果として政権与党の大敗・過半数割れとなったようであります。これに伴い、今後の国政運営は大きな混乱・停滞も予想されます。

我が町にとっては、これから抱える課題は少なからぬものがあり、何よりも景気の回復と地方重視の安定した国政を望みたいものだと考えております。

さて、東北新幹線七戸十和田駅開業まで残すところ１４６日、もう間近といっても過言ではありません。そこで開業イベントの一環として、町民の開業に向けての機運の醸成と開業効果を高めるために、観光交流センターへのパノラマオブジェの展示を計画しているところでございます。

また、七戸体育協会加盟団体やスポーツ少年団、各種団体が利用し、町のスポーツ振興に大きく貢献してまいりました体協バスが老朽化し運行に支障が生じてきたので、早急にバスの更新が必要となってまいりました。

このため、これらに係る予算を補正議案に計上いたしておりますので、議員皆様のご理解を賜りたいと存じます。

それでは、今臨時議会に上程いたしました議案２件の概要についてご説明申し上げます。

議案第５４号は平成２２年度青森県上北郡七戸町一般会計補正予算第２号であります。

歳入歳出予算の総額に５，４９４千円を追加し、歳入歳出予算の総額を９７億２０，４９４千円とするものでございます。

歳入は、地方交付税に９４千円、県支出金に５，４００千円を追加し、歳出は商工費に４３１千円、土木費に３，０６２千円、教育費に２，００１千円を追加するものでございます。

議案第５５号は、物品納入契約の締結についてであります。

次世代電気バスの購入について、随意契約により「豊田通商株式会社」に落札となったので、地方自治法及び町条例の規定により提案するものです。

以上が、本臨時会に上程いたしました議案であります。議員の皆様には慎重審議の上ご賛同賜りますようお願い申し上げます。

○議長（田中正樹君） これをもって、提出議案の説明を終わります。

これより、議案審議に入ります。

○日程第5 議案第54号

○議長（田中正樹君） 日程第5 議案第54号、平成22年度青森県上北郡七戸町一般会計補正予算第2号を議題とします。

これより質疑に入ります。

質疑は、事項別明細書により行います。

歳入歳出全般にわたり、発言を許します。

14番。

○14番（田島政義君） 8款の土木費のところの費目でこれ1,500千円おそらく花火だと思いますが、これについて、当初は新幹線の開業イベントの花火は冬と聞いていた、これがどうして夏になったのか、これが1点、それから体協では要望書として2,000千円、4WDのマイクロバスで2,000千円は上げた、500千円削ったその理由がもしあれば財政課長から聞きたい、よろしくお願いします。

○議長（田中正樹君） 町長。

○町長（小又 勉君） お答えいたします、開業時のイベントとして実は花火の打ち上げというのも、一応計画しておりました。もちろん駅舎の近辺ということでありました。ところが、軽種馬協会があそこにあるということで、一切あそこではあのようなものは不可能と、無理してやると北海道で競走馬が骨折をした経緯があると、相当な損害賠償これが生じたことがあるということであります。そこで、当初想定したものですから、となれば夏祭りでもいわゆるこれからの観光の様々なPRなりそういったものの人のニーズではありませんけれども、そういった人も選ぶということでこれからの開業に向けて、あるいは、また開業後のPR活動もやっていただくということであります。ですから、その中の一環としてそれじゃ夏にやろうということでこうゆうふうの設定をいたしました。

○議長（田中正樹君） 企画財政課長。

○企画財政課長（楠 章君） 2点目の体育協会補助金への要望額と500千円の差の理由というご質問でございましたのでその件についてお答えいたします。

当初事務方同士で協議を重ねてまいりました、利用状況、走行状況等ですね、その中で体協自身もですね、十分頑張るけれどもどうしても財源が不足だと、尚且つ老朽化が著しい、修繕等に大分出費を科さなければならない状態にあるので、速やかにそのへんを整備したい、とこういうふうな申し入れもございました。事務方同士で詰めた中で、行政としても使用の実態等を見れば、体育協会傘下の団体が、大分ある沢山に抱えていると、その中でスポーツ団体のスポーツの振興に対して寄与している部分が大であるというふうなことは当然理解できると、いうふうなことで財源について協議を重ねて参りましたが、体育協会としても大分の努力をすると、いうふうなところで不足分の500千円前後の額

について新に車の購入をもとめる際の値引き交渉とか、というふうなところをご期待申し上げてこの金額になったという経緯でございます。以上です。

○議長（田中正樹君） 14番。

○14番（田島政義君） 今の説明だと解ってわからないような苦しい答弁なんです、ただ新車を買おうと8,000千円ですから役場にそういう要望は出来ない、ただ4駆でないと冬の子供達のができないということで4駆を選んだ、ただ500千円違うとおそらく2駆かなんかになると思うんですが、そのへんだけは理解をしておいていただかないと、予算くれたのにどうして4駆と言っていたのが2駆になったのかといわれても困るものですから、確認だけはしておきたい。

それから、もう一つ、花火の方ですが町長、これ前に牧場の馬の怪我の件で諏訪牧場さんで1回工事の関係で補償をかなり払ったという経緯があるんですが、そうすると諏訪牧場さんと花火を上げる会場はたいして離れていないんです、前に諏訪牧場さんとの関係を解っていれば、当然ふれあいセンターの所で上げることにしてもよほど考慮しないと、軽種馬協会であれば当然同じくらいの距離でありますから、そういうことを考えてそれで尚且つこういうふうにしたのか、今まで上げた結果そういうふうなことが一切ないということで、そこなら大丈夫だということでこういう計画を立てたと思いますが今一度答弁をお願いします。

○議長（田中正樹君） 町長。

○町長（小又 勉君） バスについては今までの利用の実態もずうっと調べまして、今スポーツ少年団とかそういったところからのバスの利用の要望もかなりきております。これから向けては、いわゆる日曜あるいは土日・祭日、それ以外の平日でもそういった団体あるいは町内のスポーツ等に関連した団体への貸し出しというのがかなり多くなれば、ある程度の後での考慮というのはこれは生れてくるのかなと思っております。ただ今までの運行の実態は回数としてはあまりなかったということで、取り敢えずは確かに苦しいとは思いますが、そのへんの町としての一つの姿勢もご理解を頂きたいというふうに思います。

それから、花火ですけれども開業時点は当然駅前ということでもう目と鼻の先です、軽種馬協会は、ですからかなりの衝撃、音、諏訪牧場さんとは、合併前の、相当な花火は上げましたが、あの時点でのトラブル等私が知っている範囲では一切ありませんでした。勿論事前の連絡はしますけれども、そういった面を考慮すると大丈夫だろうということで、こういうふうに設定をしたということでもあります。

○議長（田中正樹君） 8番。

8番（三上正二君） 今の花火の件ですけれども、例えば花火を上げるというのは駅前で上げるから意味があったのでしょ。だから、あそこで上げる計画を立てたわけでしょ、12月に。そうするならば別にそこで駄目なら何処で花火を上げてもいいかと言えば野左掛の方で上げていいというものでもないでしょ。そうすると、12月のイベントこれからどんなかたちのもの組むかわからないけれども、やはり花火が駄目なら花火をやめてでもや

はりあその場所駅前というかたちの中でその冬場の今まで計画したかたちでやるのが本筋ではないかと思うんですけども、いかがでしょうか。

○議長（田中正樹君） 町長。

○町長（小又 勉君） 12月4日が開業ということで、その頃の開業イベントになると思いますが、当然観光交流センターを主会場に、道の駅あの近辺でやるイベントになりますけれども、そこでやるイベントにとんでもない方で、何でもない所で上げるというのもですね、これはやはりどうかと思います。いわゆるこれから、町でやる色々なものについてはもうほとんどが、色々なイベントについては開業をにらんだプレイベント、あるいはまた、様々な開業後のイベントということになっています。そのへんでの関連付けということで、夏祭りキャンペーンをしてくれる方々のコンテストみたいな、それをやる一環としてじゃやろうかとして設定をしました。

○議長（田中正樹君） 8番。

8番（三上正二君） 解るんだけど、そのコンテストはコンテストでこれは必要なことだと思うし、いいと思うんですけども。ただ、誤解しているのは主たる会場の中でどうしても花火と言ったからと言って花火を上げなくても、それが駄目なら予算組み直して別な方にもっていけばいい話でしょ。でもやはり一番なんなのは、夏祭りの形は今までの経緯等を見ると、盆にやるというのは帰省して帰ってきた人たちの意見であそこでやるんだということがメインで夏祭りになった経緯があるはずです。一番最初にスタートした時には別な形でベッコ祭りと一緒にだったんですけども、それはそれでいいんですけども、そうすればイベントの形でいけば町民の方々の認識はムードを盛り上げることも大事ですけども、やはり駅前の形でやるという場所を限定した形、そういう形であるべきだと思うんです。そのコンテストの審査がどうのこうのではなくて、やはりそういうふうにしていかないと、何かこう折角それだめであれば別な方に振り分けて駅前の当たりでもやるべき方に足した方がいいような気がするけどもどうでしょうか。

○議長（田中正樹君） 町長。

○町長（小又 勉君） 冒頭の提案理由説明でも申し上げました、とにかく町内の意識の高揚、機運の醸成ということでいろいろ検討した結果やるということであります。そのへんで一つご理解を頂きたい。

○議長（田中正樹君） 14番。

○14番（田島政義君） 町長苦しい答弁はわかるんですが、ただね、勘違いしてもらって困るのが、夏祭りの実行委員会で花火を上げないというのが決まってあるでしょ、夏祭りとしては、今は新幹線としてやることでしょ、それを誤解されると困るんで、また夏祭りで花火復活したのかというと、別に秋祭りだって何万の観衆が出る、ただ、七戸の秋祭りだって花火を上げられないこともない、歌手を連れてこななければならない、それを一切言っていない、旧七戸側としては色んな行事やっけていても、ただそういうのをきちっとして、今はあくまでも新幹線でやるんだということをきちっとしておかないと、やは

りこれ夏になったから花火上げたからという、これまた毎年花火上げるのかとなると我々観光協会としてはやはり色々と注文がつくわけですよ、そのへんきちっと答弁してください。

○議長（田中正樹君） 町長。

○町長（小又 勉君） 随分こだわったような感じを受けますけれども、今までも例えば色々な事業についても、合併後財政状況をにらみながらですね、取り敢えずは中止にしましょ、あるいはその状況を見て復活というのもこれはあっています。実は私副町長時代実行委員会の委員長をやっていました、毎回ですね花火を上げろという要望というのもありました。しかし、状況をにらんであるいはまた上げることもあるかもしれないけれども今は大変だということで、その他も含めて色々我慢すべきはしたりと、ただし、状況が変わってくると当然財政の状況、あるいはまた、全体的な町の今持っている色んなイベント等をにらんで、やるべきはやるということできたいというふうに思っています。今回も取り合えず色々なイベントについては、必ず新幹線の開業効果を出すために色んなイベントを全てそれに絡めるということなんですがそうやっているわけでありまして、その中の一つとしてやるということに理解をして頂きたいというふうに思っています。

（答弁になっていないという声あり）

○議長（田中正樹君） 暫時休憩いたします。

休 憩 午前１０時２０分

再 開 午前１０時２３分

○議長（田中正樹君） 休憩を取り消し会議を開きます。

町長

○町長（小又 勉君） 当初申し上げましたとおりですね、開業イベントの一環として本来１２月にやるものを今回夏祭りで上げるということでございます。

○議長（田中正樹君） １６番。

○１６番（白石 洋君） 今の問題でありますけれども、基本的に１，５００千円そのものが全部花火を上げるためにするものですか、中には別なイベントのために予算を計上したのかそのへんのあたりをお聞きしたいと思います。ところで、全体計画で花火をどれぐらい上げるのかわかりませんが、一般的に聞くところによれば大変な金もかかるわけですが、お願いをした補助を出す団体がどれだけの計画でやろうとしているのかこれは全部でやっても１，５００千円ですから、相手もあることですがこれは１，５００千円ぐらい集めて３，０００千円となっても、一般的に聞く花火大会と表するものの金額からいくとたいした金額でもないような気がするんですが、ただぼやらっと上げてぼやらっと終わるようなものであっても私はいけないと思うんですよ。どうせやるんなら効果が出るようなことをねらってきちっとやはりやるべきであって、ただ私残念だなと思うものは、来月やらなければならないものを、６月の定例議会あたりでこういう計画がきちっと組まれて、そして事業というのは進めていくのが本来のあるべき姿だなと、こういうふうに思っ

ているわけですが、それはそれとしてそこで町長にお伺いしたいんですが、どうも最近新幹線があと何日だとカウントダウンしているわけですが、八戸駅だとか新青森駅のこと等については新聞・テレビを見ておりまして非常にあんばい良いようなことで宣伝されているわけですが、私の僻みかも知れませんが、どうも中間駅に当たる我が七戸町がすこし色んな意味で置いてきぼりをくっているような気がしないでもないんですよ、これおそらく町長さんだって幾らかそのへんのことには感じていると思うんですよ、そのへんのあたりで今の1,500千円についても基本的には一般財源から拠出していることになるわけですが、そういったこと等を考えていけば色んな意味で、県あるいはまた国から来る交付税やなんかとの兼ね合いもあるでしょうが、このへんの予算的なもの等については、ただ単に駅が出来る町だからとうことで一般財源の拠出をしているんだということではなくて、色んな事を含めて、色んなものが来ているんだと思うんですが、さっき言ったようにどうも少し置いてきぼりというんですか、ちょっとこう新青森だとか八戸だとかというのが先に立って、我が中間駅七戸十和田駅がちょっと遅れをとっているような気がしないではないと思うんですが、この辺のあたりはどんなあんばいで町長感じていますか。

○議長（田中正樹君） 町長。

○町長（小又 勉君） まず、1,500千円の内訳ですが花火について1,000千円と、大したことありません、勿論あのこれだけでは少ないなという感じはしまして、花火を上げたいという会なるものは色々話も来ておりました、いろいろ要望も来ておりました、ですからそのへんでこれからのいろいろ交渉をしながらですね、出来ればもう少しせめて1時間ぐらい上げれるように努力をしていきたいと思っております。また、まだまだ厳しさが続いておりますので、あまりまた一般財源で多額というのも考えものだと、ですから一つ景気付けということで気運を盛り上げるということでそういう内容でやっていきたいと思っております。

新青森駅、八戸もそうですけれども、確かに色々な状況から非常に我が方も古いと言えはなんですけれども、人に苦しいと言いますか、というのは青森も八戸も商工会議所という大きい組織があって専門のそういう部会があったりですね、そちらが主体的にいろいろなものを組んでいくということであります。我が方も商工会さんなりですねいくらかはやっていますけれどもほとんどが行政主導、ですからわからない分野を進めるということで非常に職員達も苦勞しております。また、たまに県に対してもなんか差別的な事が見えた場合は強く抗議をしながらですね、特に県の観光連盟に内の方から職員も出しておりますので、余り分け隔てせずに、どちらかと言えば青森県の中央の駅だよという意気込みで進めていきたいとそう思っております、たった1回しかないチャンスですからあとで失敗したという事のないようにですね、できるだけのことをやっていきたいというふうに思っております。

○議長（田中正樹君） 16番。

○16番（白石 洋君） 大体話はわかりました、いずれにしても強く抗議するときには、

きちんと手を上げてなされた方が今後のためにも私は非常に大事ではないかなと思っております。特にこれは開通した後にもイベントやいろいろな事が催されていくわけですから、そのように是非お願いをしたいなと思うております。

それから、バスの件ですがね、新車を買えば8,000千円ぐらいするという話ですが、バスの件についてもですね1,500千円位の中古車をとという事になるでしょうが、これらについてももう少し考えてもいいのではと思うんですよ、今まで使っていたのがまずなくなったからこういう時世だから中古で我慢したいという気持ちもわかりますけれども、やはり不特定多数の人たちが運転して歩きますからね、余計にも中古車への補助というのは十分考えないと、折角出してあげた補助金も、ただただまづかったということ等になればこれは大変な事だと思うんですよ、七戸高校でもマイクロバス持っているわけですが、一時期中古車で我慢しようという話がありましたけれども、やはり皆さんの意見を聞きましたら多少苦しくても何とかして新車にした方がいいのではないかと、いうふうな事等もあって急遽新車を購入したという経緯がついこの頃あっている事実もあるわけですのでね、これは町からすれば補助にして1,500千円という少なれば少ないほどいいかもしれませんが、買う方がいいからいいでしょうというふうなことだけでは、このバスというのは機械というのはそうでないような気がするのですが、企画課長達はそういったこと等については、あるいはまた担当課の方では、どういうふうな事からこれでいいのではないかという決断をされて予算化されているのかご答弁をお願いしたい。

○議長（田中正樹君） スポーツ振興課長。

○スポーツ振興課長（小原信明君） ただいまの質問にお答えします。

体育協会の要望書によりますと、バスを購入計画をし平成19年度より基金の積み立てをしてまいりました、それが22年度で1,880千円ほどになっております。中古バスでございますが4,000千円程度のもので下回りのしっかりしたものを購入したい、という計画の中で先ほど言いましたように不足額およそ2,000千円程予算要望いたしましたところ1,500千円を付けていただいたと、そういう経緯でございますのでよろしくご理解のほどお願いします。

○議長（田中正樹君） 町長。

○町長（小又 勉君） 中古車の購入という事でありまして、勿論値段もはっきり決まったものではない、あるいは、4,000千円超えるかもしれませんし、下回るかもしれませんしそういうこともあります。それから、今まで申し上げたとおりですね、今までの運行した回数からしても余り多いわけではなかった、これから期待するのは町内の各種スポーツ団体、いわゆる平日であっても色々な貸し出し、あるいはスポーツ少年団に対する貸し出しという、そういったものでですね、いろいろ町に対する町のそういう需要に対してのですね一つのバスの提供というのがあってくればですね、当然今後の検討の課題になると思います。実は要望書の上がったのもかなり遅くなってからという事でありまして、本当は満額だと良かったと思いますけれども、何事につけても出したものに対してある程度カ

ットカットというのは常でありますので、取り合えずはそういうことで今回は提案をしたということです。これからの状況次第で、あるいはまた次年度以降でもですね、何らかの形でそういうふう to 色々と使うという事になってくれば十分検討の余地という事があってくると思います。

○議長（田中正樹君） 2 番。

○2 番（佐々木寿夫君） 7 ページの新幹線開業効果推進補助事業の補助金に関して伺いたいたんですが、駅前の I C T の事業をいまやっていますね、デジタルサイネージとタッチパネルが設置されているんですよ、ところが、タッチパネル盤も工夫されているんですが、タッチパネル盤の情報が不十分なところがあるし、それから、デジタルサイネージの方の情報に時代遅れの部分もあるんですよ、私も注目してみているんですが、デジタルサイネージの方は段々見なくなっている、七彩館の方になるとデジタルサイネージのスイッチを切っているんですよ。だから七彩館の方にはデジタルサイネージは写っていないんですよ、タッチパネル盤はあるんですよ、そこでお聞きしたいんですが、デジタルサイネージやタッチパネル盤、これは I C T 事業で数千万かけてやっている事業なんですが、これは、要するに担当している課が何処で誰があれを作っているのかという事と、それからこれは一定の完成の期日、デジタルサイネージやタッチパネル盤の完成の期日は何時に設定していたのかお伺いしたいと思います。

○議長（田中正樹君） 企画財政課長。

○企画財政課長（楠 章君） ただいまのご質問にお答えいたします。

デジタルサイネージ I C T の整備事業は、企画財政課で所管してございます。まず補助事業等を受けまして機器の整備は予定どおり終わってございます。今ソフト事業の様々な情報、あるいは画面の映像ですか、それらを業者から組み込みをさせていただいているところでございます。まだ完成は 1 2 月の開業をにらみ合わせて行いますし、その後も様々な新しい情報が入ればその都度入れ替えをしながら整備をしていくというふうな事になってございます。やはり、情報提供ですので古いものは利用する方へ提供してもこれは何ら価値が生じないわけですので、そのへんについては今使い方もアンケートと言いますか声をいただきながら、こういうふうにした方がいいとかというふうな事の整備をしているところでございます。ですから今後ともそういうふうな情報、ご意見等をいただきながらですね、さらに充実したものになるよう今後も詰めていきたいと、こういうふうを考えてございます。

○議長（田中正樹君） 2 番。

○2 番（佐々木寿夫君） 業者に今データ - ベースサーバーを作ってもらう、管理してもらおうということだと思うんですが、この業者というのは何処の業者で業者に委託するとどの程度のお金が掛かるのか、お知らせください。

○議長（田中正樹君） 企画財政課長。

○企画財政課長（楠 章君） 手元に今資料がございませんので、今ここで具体的な数字

というのは申し述べる事が出来ませんけれども、大変な機材の購入に事業費の7割8割が
いっているということで、県内の業者で弘前地区にある業者で、例えば弘前市とかそうい
うところでの実績のある業者ではございましたけれども、確実な所については後ほど資料
をそろえてお届けしたいと思いますので、この場ではご勘弁をいただきたいと思います。

○議長（田中正樹君） 2番。

○2番（佐々木寿夫君） 現在のデジタルサイネージの場合は動画でないから見ない、一
般の人は、あれを動画にするとかというのについては今後の検討課題ということですか、
それだけききたいです。

○議長（田中正樹君） 企画財政課長。

○企画財政課長（楠 章君） 当初予定していたのが、画面の画像での提供という想定で
ございましたので、ただいま佐々木議員さんからですね、お話のありました件については、
担当とも協議をしながらですね、できればそういうふうな利便性の高いものに変化が可能
であればですね、是非ともそちらの方へということで、これは検討させていただきたいと
思います。

○議長（田中正樹君） 1番。

○1番（附田俊仁君） 私のほうから2点ほど質問させていただきます。まず1つ目はで
すね、祭り実行委員長の副町長に伺いたいんですが、祭りの開催が8月15日ということ
で今年は決まったようですが、その経緯をちょっとお知らせいただきたいんですね、という
のは、ござんじのとおりお盆の時期というのは、13日の墓参り、14日の新盆、15日
の終戦記念日、というかたちでびっしりならんでいてかつてはその3日間は避けてきた経
緯があると思うんですよ、それを今回は花火を上げるということになると、私の記憶では
たしか夕方6時からの灯籠流しがあったと思うんですね、それをどのように時間調整をか
けるおつもりなのかまず1点、もう一つは、バスを購入するようになるんですが、これは
町長にお伺いしたいんですが、全体的な町で所有するバスの構想上先ほども答弁にありま
したが、少年団関係の団体だとかそれから一般のスポーツの団体なんかが、バスを使いた
くても貸しませんよと言うような経緯があったと思うんですよ、それに対して多少バスの
余裕が出てくればある程度規定を緩めることも可能になるのではないのかなと考えている
んですがそのへんどうお考えかお知らせください。

○議長（田中正樹君） 副町長。

○副町長（大平 均君） 1点目の日にちの設定でございますが、実行委員会の方では平
日、または13日から16日の間ぐらいで考えていたわけですが、総意として平日で
やれば余り好ましくないと言う事が1点と、人を集めるためには土曜日あるいは日曜日と
いう点、職員も大分出ますので、そのへんの業務への支障もありますし、そういうことを
考えるとやはり日曜日になるのではないかとということで、今回は日曜日で異論も全くあり
ませんでしたので設定いたしました。

実行委員会開いたときは5月の末頃でしたので、そのお盆の15日の法要の灯籠流しだ

とか、そういうのは、花火のことは考えていませんでしたので、そういう議論にはならなくてですね、日中従来どおりやるということで考えていましたので、その時点では何も異論もなく、花火は従前どおり今年は見送りしましょうかという話で終わっていました。以上です。

○議長（田中正樹君） 町長。

○町長（小又 勉君） バスの関係でお答えします。かつてはスポーツの専用バスということでいろいろ貸し出しをした経緯もありますが、財政上の事情からこういったものも一般の使用という事に振替えて、なかなかそういう面では対応がちょっと低くなっていたという経緯があります、これからスポーツの振興その中で特に要望が多いのはバスの要望ということでありますので、そういった規定等もこれからある程度見直してですね、スポーツ振興、こういったものに向けて取り組んでいきたいと思います。

○議長（田中正樹君） 1 番。

○1 番（附田俊仁君） この今日の議会が終わった後ですね、花火打ち上げというのは確定するわけですが、早急に他行事との兼ね合いですね、そのへん十分考慮した上で実行していただければ非常によろしいかなと考えております。あと、もう1つバスの件については私も全くそのとおりだと思いますので是非前向きに広い窓口、門戸で進めていただければ助かります。以上です。

○議長（田中正樹君） 1 4 番。

○1 4 番（田島政義君） 皆さん駅が出来てきたら、イオンの話が出ているんですが、一般山車小屋の関係で、前の池ですね、穴掘った所、ジャスコが埋める事になっているんですが、何時頃に、秋祭りが終わる前に舗装をかけたいというのであれば、当然その前に埋めていなければいけない、ジャスコがさっぱりこのごろ聞こえてこなくなったんですが、どこにいったのか、やはりそのへんもう1回町として、大変な土地を提供しているわけですから、やはり、我々も聞かれても答弁できないものですから、その後どうなっているのか町長の方でわかっていたらお願いします。

○議長（田中正樹君） 町長。

○町長（小又 勉君） 前回の議会のときにもお話しておりますがいわゆる遅れております出る事は出るということですが、色々な理由があっているようですが、一つは地権者との同意書をかわしてやっていますけども、そのへんの条件での食い違いというのも一部出たようでありまして、そのへんでの遅れというのもあっています、いま時点の情報では8月末を目途として、予約契約というのをやると、それで一部お金の支払というのがあったという事ですが、一括契約と、もう日付も遅くなっているということで一発契約をしたいというイオン側からのお話があります。いろいろなスケジュールから行きますと、今月の中ごろからですね今度建設関係のチームが町の協議にやってくるという情報もいただいておりますが、いずれにしても新幹線開業までの開店というのは今の時点ではほぼ不可能な状況ということだと思いますが、最終的にですね、春頃になるのか、出る事は出るという

状況だと思います。従ってあそこの造成いわゆる沈殿池ですね、あそこの埋めるというのは秋祭りまでには間に合わないんじゃないかというふうに思っておりまして、非常に不便を掛けるわけですが、そのへんは一つお互いに我慢しながらの当面の使用となろうかと思っています。

○議長（田中正樹君） 他にありませんか。

質疑がありませんので質疑を終結します。

これより討論を行います、討論はありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

討論がありませんので、これをもって、討論を終結します。

これより、本案について、採決します。

本案は、原案のとおり決することにご異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

ご異議なしと認めます。

したがいまして、議案第54号、平成22年度青森県上北郡七戸町一般会計補正予算第2号は、原案のとおり可決されました。

○日程第6 議案第55号

○議長（田中正樹君） 日程第6 議案第55号、物品納入契約の締結について（次世代電気バス購入）を議題とします。

これより質疑に入ります。発言を許します。

○議長（田中正樹君） 2番。

○2番（佐々木寿夫君） このバスの金額が64,575千円ということで、その内の30,000千円が補助になるということなんですが、それにしても30,000千円とうお金は大変高いお金なわけですね。それに、充電装置は大体19,000千円と言いますからこれもかなりの金額なわけですね。そこで、お伺いしますが、このバスを買ってこのバスをどのように利用して本当にこれは町にとってその分の値打ちのある使い方が出来るのかどうか、これを見ると走行距離は70Kmですから、平均40Kmで70Kmですから、十和田湖までは行かさないし、そうすると途中でまた充電設備が必要にもなるし、このバスをいったいどのように使おうとしているのかお伺いいたします。

○議長（田中正樹君） 企画財政課長。

○企画財政課長（楠 章君） ただいまのご質問にお答えいたします。

まずこの電気バスの導入でございますけれども、現在コミュニティバスを運行してございます、4台で運行しているわけですが、その一部として活用させて頂きたい、こういうふうに考えてございます。それから、土日祭日等コミュニティバスの休みの日があるわけですが、これについては一般の旅客事業者に貸し出しをいたしまして、七戸十

和田駅及び七戸町内を巡回した後にですね、今想定しているのは十和田市方面への運行を委託して実証実験に供したい、行くいくは佐々木議員さんからもお話出ましたように十和田湖方面にも足を伸ばした、当然充電設備が必要になるわけですが、これについては民間の事業者さんあるいは行政のお力添えもいただきたいということで、現在交渉を進めてございます。協議会等も立ち上げてですね、県南の一般の事業者様の外にですね、八甲田を越えて津軽地区の自治体の首長さんの参加も望めると頂けるというふうな状況でございます。今ここで確定したもので発表という段階にはございませんけども、県南地方のここ周辺の一般の例えば旅館業とかですね、それから自動車事業者さんとか、というふうな方々からご参加をいただいて、そういうふうなものでいわゆる個人の戸別の事業者様の努力で、充電スタンドをある程度設置をして頂けると、それから青森県でもですね、この電気自動車の普及のための計画をまとめてございます、県においても県費で、充電スタンドを設置、それから、民間の事業者でも電気スタンドの設置を進めるという計画を持っております、県とも連携を取りながら周辺の事業者様それから自治体の皆様方にもお願いをしてそういうふうな方向で取り組んでいけるような体制を整えているというところでございます。以上です。

○議長（田中正樹君） 2 番。

○2 番（佐々木寿夫君） 実際問題として充電の設備を作ってもですよ、実際電気自動車を利用して、その充電設備を利用するという人はそういう車は少ないんじゃないかと私は考えるんですよ、私は思うんですね、それで、県の方で充電設備をするあるいは県南の事業者とか旅館の業者とも打ち合わせをしてやるというのですが、例えば七戸の駅前に充電設備を作ってみたところで、どなたが、七戸のバスが使えば後は使わないんじゃないですか。だから無駄ではないかと思わさるんですよ、そのへんについていかがでしょうか。

○議長（田中正樹君） 町長。

○町長（小又 勉君） いずれあのもう遠くない将来ですね、こういう時代が来ると思っております。ちなみに日産のリーフというのが秋に発売ということですが、8,000台、9,000台ともうかなり予約が入っている、ただし充電インフラが整備された地方には特に入るといことです、ですから、どっかがやってその後を追っていけばもう普通の事でありまして、幸い八戸工業大学と連携した事業の一環としていわゆる世界的に先進的な取り組みという事になると思います。非常に珍しい、周辺の自治体あるいはホテル・旅館、あるいは旅行様々な業者、JTBさん、JRの方の旅行の関係ですね、非常に興味を示しております、中々こういった旅行商品というのは作れない、作らないということで実現すればかなり大きい目玉になるだろうと、いうふうに思っております。ですから県も相当我々から遅れていると思います。だけでも次第に補助を出しながら充電の設備を順次整備していくという事になればですね、これは飛躍的に普及するというふうに思っておりますし、また、自動車自体の技術も日進月歩、常に進歩しています。ですからまだまだ性能もどんどん向上していくと思いますので、そのへん我々もですねコミュニティを主体に使っ

て尚且つ観光業者といわゆる組んでですね、そちらからも料金をいただきながら結果的には普通のバスを買うよりも試算すれば安くなるというふうに、交付金の30,000千円を除いてですね、そういう試算もしておりますし、取り組み自体がですね、駅の開業をにらんで日本全国に向けてのかなり良いインパクトになる、むしろ世界に向けてのそういう情報の発信、取り組みの発信、これが私はできると思っております、これも実はですねさっきのお話ではありませんけれども、七戸十和田駅を売り込む千載一遇のチャンスであるというふうに思っております、それで導入したいというふうに思っております、そういうことでご理解を頂きたい。

○議長（田中正樹君） 2番。

○2番（佐々木寿夫君） 電気自動車を売り込んで観光業者とともに、コースを作ってやっていくと、そうすれば使用料なども入ってきて採算は取れるというふうに言いましたので、それであればわかりました以上です。

○議長（田中正樹君） 14番。

○14番（田島政義君） この前ちょっとした県南新聞見たら、十和田湖往復できないとか、大体1回の充電で何キロ走るんですか、各自治体が何時頃までに七戸町以外のところで充電の施設を作るかその計画書もやはり議会に示すべきだと、ただ口では何とも簡単に言えますけども、やはりそれ遅れ遅れになっているうちにバスの電池の寿命が来ると、まだこれ試作品のようなものですから、今のハイブリットと違って全く電池ですからかなり私はテストケースだと思っているんですよ。ですからそういう意味ではかなり慎重にですね、随時町民にも教えなければいけないし、議会にも私は教えなければいけないと思うし、そういうのをですねやはりきちっとした形で教えていただきたい、そのへんどうですか。

○議長（田中正樹君） 企画財政課長。

○企画財政課長（楠 章君） ただいまのご質問にお答えいたします。

走行距離は一回満充電で70Km、いうふうな私どもでは仕様の中でうたっております。また、充電スタンドの設置につきましては十和田市内にある自動車メーカーが市内に自社の所に、一基と、十和田市さんのほうでは市内に業者の方が一基設置するのであれば、焼山方面に一基というふうな構想を持っております。ただ十和田市内にある自動車メーカーの設置の時期がまだ明確になっていないというふうな状況もございます。十和田市さんの方ではあちらえこちらえというのはまだ、その状況が落ち着いてからというふうな事で、先日も町長始め十和田市長さんにご面会をいただきながら、その辺の情報提供といいますか協力の要請もしております。ただ、残念ながら何月までに何処へというのはまだ決定をされていないという状況でございます。

○議長（田中正樹君） 14番。

○14番（田島政義君） 一生懸命みんなで動いて早く付けてもらえば良いんですが、70Kmであれば時速おそらくそんなにスピード出るわけではないですから、70Kmしか走れないのであれば、青森往復できない、八戸往復できない、というのが出てきますから、

当然本当に町内だけばやばやと動くしか出来ない、早めに町のコミュニティで使っている間に私はやはりお願いをして、軽トラックみたいに十和田へ行ってだめになって引っ張ってきたというのはあまり格好の良い話ではありませんから、町の電気自動車を引っ張られてきたなんて結構じゃないもんですから、バスを引っ張るなんて大変な事ですから、やはりそういうのをきちっとして進めていただきたい要望です。

○議長（田中正樹君） 4番。

○4番（瀬川左一君） 64,000千円というんだけど、ちなみに普通のバスの値段というのは私たちはわかるものでもないし、25人乗りのバスだと普通では幾らぐらいするものか、電気自動車との差は幾らぐらいあるのか、また、電池の対応年数はどれぐらいあるのか、聞きたいし、工場なんかでは業務用としてリフトなんかは非常に電気自動車が利用されているんだけど、最後にはバッテリーが莫大な金もかかるというのもありますので、覚えている範囲でそのへんも聞いて知識として覚えておきたいと思います。

○議長（田中正樹君） 企画財政課長。

○企画財政課長（楠 章君） バスの購入価格ですけども先ほど予算の関連で出ましたけれども、マイクロバス新車、これは仕様にもよって大分値段の価格の変動はあるようですけども、体育協会さまで試算価格は8,000千円程度、これがマイクロバスですね、中型バス程度になると10,000千円から15～6,000千円というふうな価格が一般的ではないのかな、こういうふうに思っております。この電気バスの仕様についてはやはりバッテリーとそれを繋ぐ配線といいますか、コンピュータ関連の制御システム等にどうしても経費を伴うということで、ちなみにこの私どもが豊田通商様と契約をさせていただくというふうなことなんですけれども、早稲田大学と当初そういう試作をやった時には1億円掛かったと、それから第2段といいますか、70,000千円余り掛かっているというふうな状況もございまして、私どももこの60,000千円については、果たしてそれが適当なのかというふうなところで業者様とも大分情報収集といいますか議論といいますか、お話し合い、協議の中でそういうふうなものを確かめながら来たんですけれども、まだ個別、具体的なものについてはその会社の企業秘密といいますか、というふうな事で外部には公表するわけには行かない部分が多々あると、いうふうな事情もございましてですね、我々としてはこの額でなんとか導入をしたいというふうなことで進めている状況でございまして。電池の寿命ですけども、使い方、電池ですので、バッテリーですので、使い方のあれもあります、私ども積雪寒冷地帯とこういうふうな特殊な、今まで試作している東京方面と違いますので、想定は3年から4年程度ということで、ただ充電の回数は今言ったみたいにコミュニティで供用するというふうな事で行けばですね、これは町内の運行ですのでその都度充電ということになれば回数とすれば2,000回程度までは大丈夫と、お話しはしています。ただ、冒頭申し上げましたように技術の進歩がものすごい進んでございまして、最新の状況のものでやりたいとこういうふうには相手の業者様とも協議はしてございます。以上です。

○議長（田中正樹君） 4 番。

○4 番（瀬川左一君） こうして話を聞いていると、非常に中型バスとなると、6 t・7 t、あるバスをバッテリー、電池で動かして走るということは、この程度のものかとは思いますが、七戸の新幹線と未来のために七戸町をそれを看板にしてやるというのであれば、これも必要であるのかなと思いますが、普通の業者であって観光会社であっても、これは遠い話のことにしか聞こえませんので、この町のためにも将来のエネルギーとして、これはたぶん全国でも初めてだと思いますが、そのへん町長からも全国でもやっている所があるのかどうか。

○議長（田中正樹君） 町長。

○町長（小又 勉君） どっか離島で余り大きくない島で一部取り組んでいる例があるというのは聞いています。ただ観光にも使いたいという事であります、そういった営業で使うというのは初めてということ、ただ、観光にも使うとなればバスのグレードもある程度高いものということになります。

○議長（田中正樹君） 8 番。

○8 番（三上正二君） 先ほどのこのバスをコミュニティと合わせてそれから観光とかそういうのもあわせて使うという事ですけれども、例えばちなみに、ようするにこの空いた時間をいっぱい色んな形で使うからそれで採算ベースに合うんだということになると思うんですけど、その次にこの充電時間というのはどれぐらいですか、5 分か 10 分ですか油詰めとなれば普通 5 分か 10 分あれば詰めるんだけどそのへんはどうなんでしょうか。

○議長（田中正樹君） 企画財政課長。

○企画財政課長（楠 章君） ただいまのご質問にお答えします。いわゆる私どもがスタンドを設置する、いわゆる急速充電でいきますというと 30 分程度あれば満タンに充電できるというふうに聞いています。

○議長（田中正樹君） 8 番。

○8 番（三上正二君） となると例えば観光ルートの形の中で、これ組み方が様々あるでしょうけれども、例えばこの町内あたりであればこれいいと思うんです、30 分あってまたその繋ぎでやるのはこれどの様にもできるでしょうけれども、かりに先ほど町長申しましたように、十和田に基地があると充電できると、そうすれば仮に焼山にあったと、とするならば、まさか 70 Km しか走らないなら焼山で満タンにしなければならぬ事になるのだが、じゃ観光客とかそういう人たちは焼山で充電する 30 分の時間というのは待っているのでしょうか、そういう具体的な形のものをやらないとその採算ベースの経費をペイするというのもなかなかこれきついと思うんですよね、逆にまたそのこの電気バスで行ったらまた別のバスに乗り換えてという形で考えているのでしょうか、いずれにしても 30 分の時間はなかなかこれきついと思うんです。確かにこれ新しいことに取り組む事は非常にいいんですけど、なかなか合うのかなという感じは得になるというけどそのへんがどうなのかなという疑問ありますので、もう少し具体的な形がありましたら。

○議長（田中正樹君） 町長。

○町長（小又 勉君） とりあえず今のご質問ですけれども完全になくなった状態で、満充電が今の技術で30分、ただし全くなならないうちにこれ当然充電しますので、あるいは10分あるいは又15分と、たいがいは15分前後で済むだろうというふうなことは聞いています。ただこれも技術的に本当に進歩していきまして確かどっかの新聞で夜間電力で大量に蓄えておいて一気に充電する技術もまだ確定はしていないそうであります。いずれ出てくると、だから充電時間は当然早くなるだろうと思います。ただ今のところそういう時間が掛かるものですから、やはり拠点拠点いわゆる十和田市であれば例えば業者さんの営業所、あるいはまた現代美術館のあの付近でその辺を散策しながらの想定したコースですからこれあっちこっち行けるという今の所は状況ではない、例えば溪流であればそこでちょっとお茶を飲みながら15分、20分程度の充電とか、そういったケースを想定しながら、いま今月末を待たないで具体的にそういった事業さんを集めた、具体的な協議会を立ち上げて、その導入時期であるとかそういう全ての中身をですね十分協議をして進めるという事しております。でいずれそういったものがあちこちに出来るようになればですね本当にこれは一般的なものになると思います。ただし乗用車については、今でも160Km、100Kmは走るという事ですから、これはもう充電スタンドが一つあることによって、やはり道の駅が本当に拠点になると、バスと相当違いますのでそのへんの普及の先駆的役割も果たせるようになるというふうに思います。

○議長（田中正樹君） 8番。

○8番（三上正二君） わかりました、だから例えば新しいものへ取り組むというのはそれだけのリスクがあるでしょうし、それはそれで理解している、だから初めから採算ベースが合うんだというかたちのものの考え方ではなくて、おそらく当然それは計画だっでどんどん日進月歩していきますので、だからそれはそれとして、ただ、よそのほうでないんだと要するに充電する待ち時間も掛かるけれども、というかたちのなかで新幹線がらみでアピールという形の中で考えた方がいいと思います。これ採算ベースと今からいっても、まだ5、6年待ってから入れた方が採算ベースに合うんですよ、だからそういう意味合いで新しいもので人から注目度を集めるというかたちのもので物を考えた方が早いんじゃないか、採算ベースというよりも、要望です。

○議長（田中正樹君） 14番。

○14番（田島政義君） さっき財政課長から3、4年しかもたないんであればですね、とってもじゃないけども3、4年でバッテリーを何千万も出してまた買う、これかなりの町民への負担になるわけですよ、特に町長がさっき電池の話がでましたが、この携帯電話だっでそうですよあるうちに充電すると電池が駄目になる、こんなに技術が進んでいても、半分になって充電していても直ぐなくなる、電池が段々駄目になる、そのくらいです、そのへんもきちっと教えてください、我々わからないんですから。それから、ただ行政側もわからない議会側も中身はわからない、町民に聞かれたときに説明できない、これ貴方方

は何しに買ったのよといわれると困るから、3、4年でまた30,000千円もする電池を買い替えなんて大変な負担になると思うんですが、そのへんも詳しくやはりデータを出されないというのも、もうそこまで来て乗用車がいま、白石議員でなくても五島列島では100台も買ってばあっと走らせている時代ですから、町長いったように160Km充電できるし、バス買わないで乗用車買って散らかしたわけだ、だあっと町民に、そういうところもあるのでやはりそういうのも情報公開の時代ですから、何時までもしまっておかないでやはり町民にも教えて理解してもらおうと、そういうのをお願いしたいと思います、これ要望です。

○議長（田中正樹君） 他にありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

質疑がありませんので質疑を終結します。

これより、討論をおこないます。討論はありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

討論がありませんので、討論を終結します。

これより、本案について、採決します。

本案は、原案のとおり決することにご異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

ご異議なしと認めます。

したがいまして、議案第55号、物品納入契約の締結について（次世代電気バス購入）は、原案のとおり可決されました。

以上をもって平成22年第1回七戸町議会臨時会に付議されました事件はすべて議了いたしました。

これをもって、平成22年第1回七戸町議会臨時会を閉会いたします。

ご苦労様でした。

散 会 午前11時13分

以上の会議録は、事務局長佐野尚の記載したものであるが、内容に相違ないことを証明するため、ここに署名する。

平成 22 年 7 月 12 日

上北郡七戸町議会 議 長

議 員

議 員